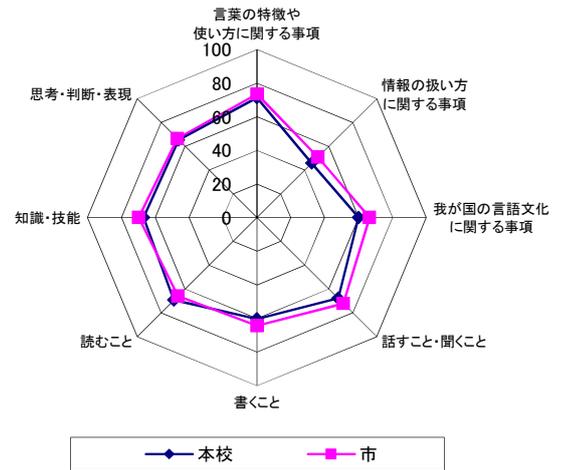


# 宇都宮市立清原南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.4	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	45.8	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	60.0	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	67.8	72.3	73.7
	書くこと	60.3	64.3	66.6
	読むこと	69.4	65.8	64.9
観点別	知識・技能	66.9	69.8	70.8
	思考・判断・表現	65.4	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

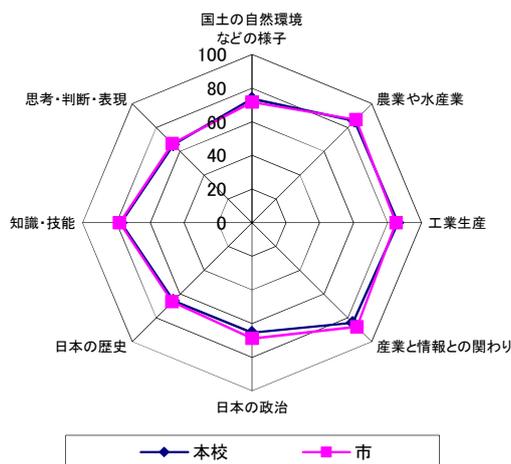
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は71.4%で、市の平均正答率より2.1ポイント下回っている。</li> <li>●漢字の読み書きでは、すべての問題で市の平均正答率を下回っており、漢字の定着が十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の定着のため、確認テストの実施やAIDリルの有効活用を進め、繰り返し練習して習熟を図る。</li> <li>・国語の授業だけでなく、漢字を使うように指導するとともに、文脈に合う適切な漢字を読んだり書いたりすることができるようにする。</li> <li>・日常生活の中で敬語を使うなど、時と場に応じた適切な言葉遣いを身に付けさせていく。</li> <li>・漢字の学習の際に、音訓読みや熟語を意識して指導するようにする。</li> </ul>
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は45.8%と市の平均正答率より5.2ポイント下回っている。</li> <li>●話や文章に含まれている情報と情報との関係を捉えて理解し、目的に応じた文章で表現することに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文を読んで要旨を捉え、得られた情報を様々な角度から見られるように整理する活動を取り入れる。</li> <li>・一人一台端末や図書資料・新聞等を活用して情報を収集し、分かりやすく明確にしながらまとめる活動を通して、自分の考えを伝える力を高めていく。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は60.0%と市の平均正答率より6.5ポイント下回っている。</li> <li>●和語・漢語・外来語についての理解に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語辞典や漢字辞典などを活用し、語彙・語句、語源に興味をもたせるように指導する。</li> <li>・国語の授業だけでなく、生活経験と結び付けて伝統的な言語文化に触れる機会を設けるなどして理解を深める。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は67.8%と市の平均正答率より4.5ポイント下回っている。</li> <li>●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題では、平均正答率が35.0%で、市の平均正答率より11.4ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を整理して聞く力や、聞いたことを基に質問を工夫しながら話す力を高められるようなやりとりの場を意図的に設ける。</li> <li>・役割や立場を明確にし、インタビューするときの目的や意図に応じた話し方のポイントを具体的に示す。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は60.3%と市の平均正答率より4ポイント下回っている。</li> <li>●目的に応じて文章を書いたり、自分の意見とその理由を明確にして文章を書いたりすることに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や意図に応じて、自分の感じたことや考えたことを、文字数等の指定に合わせて書くという活動を意図的に設定する。</li> <li>・簡単に書いたり詳しく書いたり、事実と感想、意見とを区別して引用したりして、自分の考えが伝わるように書く活動を充実させる。</li> <li>・記述した文章を読み返し、構成や書き表し方などに着目して文や文章を整えられるように指導するとともに、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけるようにする。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は69.4%と市の平均正答率より3.6ポイント上回っている。</li> <li>○人物像を具体的に想像したり、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる問題については概ね理解できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章全体から、構成や状況を捉えて、正しく読み取る力を身に付けさせるために、根拠となる言葉を見つける活動を取り入れる。</li> <li>・引き続き読書活動を充実させ、様々な分野の本を読む機会を増やしていくことで、多様な考えをもてるようにする。</li> <li>・意見や感想を共有する場を設け、共通点や相違点などを捉えながら自分の考えを広げられるようにする。</li> </ul>

# 宇都宮市立清原南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	73.7	71.6	69.6
	農業や水産業	85.6	86.7	83.7
	工業生産	86.1	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	84.2	87.7	77.4
	日本の政治	65.4	68.9	71.7
観点別	日本の歴史	65.6	66.7	66.3
	知識・技能	77.3	78.0	76.7
	思考・判断・表現	65.6	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

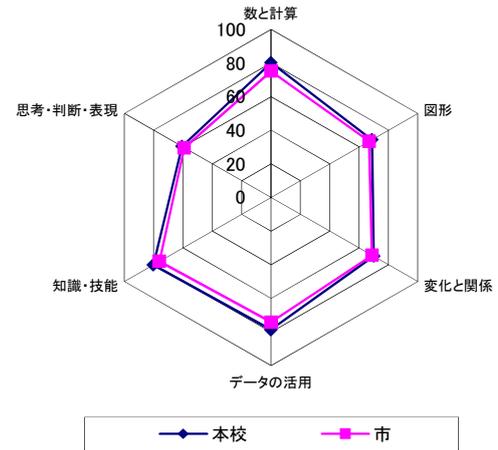
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○平均正答率は73.7%で、市の平均正答率より2.1ポイント上回っている。 ○日本の主な地形についての問題では、平均正答率が83.3%で、市の平均正答率より9.3ポイント上回っている。 ●沖縄県の自然環境についての問題では、平均正答率が76.7%で、市の平均正答率より4.0ポイント下回っている。資料から読み取った情報の処理の仕方に課題が見られた。	・引き続き日本周辺の国々の位置や海洋名などを正しく理解できるよう、世界地図や地球儀、一人一台端末などを効果的に活用していく。 ・我が国の国土の自然環境と国民生活についても正しく理解できるよう、図書資料や画像資料等を使い、地形や国土の様子を具体的に捉えられるよう工夫して、指導していく。
農業や水産業	●平均正答率は85.6%で、市の平均正答率よりも1.1ポイント下回っている。 ●米の生産工程に関する課題についての問題では、平均正答率は80.0%で、市の平均正答率より1.6ポイント下回っている。	・日本の食料生産に関する資料の読み取りと、農業における課題に関連して考察できるよう引き続き指導していく。 ・日本の食料生産に関する知識を高め、地図や資料と関連づけて理解できるようにしていく。 ・算数や理科などの他教科との横断的な学習を意識しながら、グラフなどの資料を読み取る機会を継続して指導する。
工業生産	○平均正答率は86.1%で、市の平均正答率より1.1ポイント上回っている。 ○日本の工業の特色についての問題では、平均正答率は78.8%で、市の平均正答率より4.9ポイント上回っている。 ●工業製品の分類についての問題では、平均正答率は88.3%で、市の平均正答率より3.9ポイント下回っている。工業製品の特徴についての理解について課題が見られた。	・わたしたちの生活と工業生産との関わりについて関連付けて考えることで、日本の工業についての興味関心を高められるように指導していく。 ・日本の主な輸入品や輸出品についての基本的な知識を高め、グラフなどの資料と関連付けて考えられるように指導していく。
産業と情報との関わり	●平均正答率は84.2%で、市の平均正答率より3.5ポイント下回っている。 ●情報の発信と受信の注意点についての問題では、平均正答率が70.0%で、市の平均正答率より9.1ポイント下回っている。 ○様々なメディアについての問題では、平均正答率は98.3%で、市の平均正答率より2.0ポイント上回っている。	・デジタルシティズンシップ教育との関連を意識し、インターネットを使用する際の注意点について正しく理解し、効果的に活用できる力を身に付けられるようにする。 ・授業で、映像によるニュースや新聞記事などを取り入れ、正しい知識や判断力を養えるようにする。 ・情報の活用とわたしたちの生活を関連付けて考えることで、産業と情報との関わりについて興味関心を高められるようにする。
日本の政治	●平均正答率は65.4%で、市の平均正答率より3.5ポイント下回っている。 ●天皇の地位についての問題では、平均正答率が46.7%で、市の平均正答率より16.3ポイント下回っている。天皇の地位や権限についての理解に課題が見られた。	・国会や内閣、裁判所の役割など、日本における三権分立について正しく理解できるよう、資料やメディアの情報を効果的に活用し、指導に生かしていく。 ・様々な国事行為や被災地への訪問など、天皇と国民との関係を取り上げ、象徴としての天皇についての理解を深められるよう指導していく。
日本の歴史	●平均正答率は65.6%で、市の平均正答率より1.1ポイント下回っている。 ●古墳時代の知識を問う問題では、平均正答率が41.7%と、市の平均正答率より8.8ポイント下回った。 ○元寇についての問題では、平均正答率が35.0%にとどまり、市の平均正答率より6.5ポイント上回っている。	・歴史上の出来事について自分事として捉えられるようワークシートや発問の工夫をこれからも継続して行っていく。 ・動画資料や図書資料、一人一台端末を効果的に活用するなどして、単元ごとに学習内容をまとめる機会を設け、知識の定着を図る。 ・歴史的な背景を考えて、考察できるような授業の工夫を行う。

# 宇都宮市立清原南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	80.2	75.1	75.8
	図形	68.8	66.8	68.3
	変化と関係	70.0	68.8	65.0
	データの活用	78.6	74.1	63.6
観点別	知識・技能	80.2	76.1	75.8
	思考・判断・表現	60.6	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

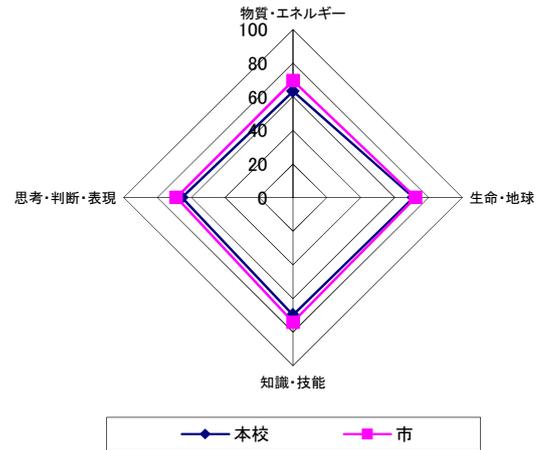
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○平均正答率は80.2%で、市の平均正答率より5.1ポイント上回っている。</p> <p>○小数と分数の乗法と除法の計算は、市の平均正答率を上回っており、計算の仕方は概ね定着している。</p> <p>●小数の乗法の文章問題では、図と計算式を関連させて数量の関係を捉えたり、立式したりすることに課題が見られる。</p>	<p>・基礎的な小数・分数の計算や約分、通分の仕方などが身に付くように、少人数・習熟度別学習や、スキルアップタイムを通して、今後も指導の充実を図る。</p> <p>・AIドリルなどを活用して練習問題に繰り返し取り組んだり、個に応じた指導を行ったりして確実な知識の定着を図る。</p> <p>・文章問題では、数直線や図を使って考える活動を積極的に取り入れ、問題の内容を正確に捉えたり、立式したりできるように指導していく。</p>
図形	<p>○平均正答率は68.8%で、市の平均正答率より2ポイント上回っている。</p> <p>○図形を構成する要素に着目し、基本的な図形の性質を捉え、正確に作図をすることができた。</p> <p>○面積や体積の求め方を理解し活用できた。</p> <p>●展開図から、見取り図の辺の長さを読み取ることに課題が見られる。</p>	<p>・実物の図形を準備するなど教材の工夫を図ったり、具体物を操作する活動を取り入れたりとすることで、図形の性質を捉えられるよう指導する。</p> <p>・様々な図形の面積や体積を計算で求めることができるように、公式を確認するとともに、繰り返し練習問題に取り組む。</p>
変化と関係	<p>○平均正答率は70.0%で、市の平均正答率より1.2ポイント上回っている。</p> <p>○表から面積と数の割合を求め、混み具合を考察する問題では、平均正答率は83.3%で、市の平均正答率より9.9ポイント上回った。</p> <p>●基準量と比較量から割合を求める問題では、平均正答率は50%で、市の平均正答率より3.8ポイント下回った。</p>	<p>・日常生活に関連付けた教材を取り入れることで、児童の興味関心を引き出し意欲的に取り組ませる。</p> <p>・(比較量)÷(基準量)=(割合)などの言葉の式を覚えるだけでなく、数直線や図を描くなどして、数量の関係を捉えることができる活動を多く取り入れる。</p>
データの活用	<p>○平均正答率は78.6%で、市の平均正答率より4.5ポイント上回っている。</p> <p>○走る距離と歩幅の平均から、ある距離を走るときにおよそ何歩かを求める問題では、平均正答率は76.7%で、市の平均正答率より16ポイント上回った。</p> <p>○中央値を求める問題では、平均正答率は83.3%で、市の平均正答率より7.8ポイント上回った。</p>	<p>・社会科や総合的な学習の時間等の学習と関連付け、日常生活の中で、必要なデータを集め、観点を決めて整理して、目的に応じてグラフや表の特徴や傾向を考察できるような活動を今後も取り入れる。</p>

# 宇都宮市立清原南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	63.2	69.5	65.2
	生命・地球	71.1	72.3	70.1
観点別	知識・技能	69.7	74.0	70.7
	思考・判断・表現	65.6	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は63.2%で、市の平均正答率より6.3ポイント下回っている。</li> <li>○実験の結果から、コイルの巻き数を増やすと電磁石の強さが大きくなることを説明する問題では、平均正答率は86.7%で、市の平均正答率より7.7ポイント上回っている。</li> <li>●ふりこの周期はふりこの長さに依存することを理解し、同じ周期になるふりこを指摘する問題では、平均正答率は53.3%と、市の平均正答率より17.7ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の前に予想を立てる活動は毎回行ったので、予想、実験のめあて、実験という流れは定着した。しかし、予想の根拠が生活経験や既習事項から組み立てたものにならなかつたり、お互いの考えを理解し合うための知識が不足していたりした。実験の結果と身の回りの事象を結び付けることを繰り返し行い、知識の定着を図る。</li> <li>・具体物を操作し、試行錯誤しながら学習することで、日常生活に応用がきく、生きた知識の習得を図る。</li> <li>・単元ごとの復習の時間を確保し、プリントでの基礎知識の定着を図る。</li> </ul>
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は65.6%で、市の平均正答率より3.1ポイント下回っている。</li> <li>○根の断面のようすを推測する問題では、平均正答率は81.7%で、市の平均正答率より9.8ポイント上回っている。</li> <li>●農家がテントウムシを畑に放す理由を食物連鎖をもとに推測する問題では、平均正答率は58.3%で、市の平均正答率より12.8ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童自身の言葉で予想やまとめができるように、言語活動の時間をしっかりと確保し、論理的な思考力を育てる。全体への発表の機会も設け、実験結果から段階を追ってまとめにつなげていくよう工夫する。</li> <li>・理科的な語彙の不足が見られるので、小テスト等で繰り返し問題を解くことで知識を定着させる。</li> <li>・画像や動画などの視聴覚教材を、ICT機器を積極的に活用することで、授業中では観察しづらい事象の理解を深める。</li> <li>・日常生活と関連付けて考えることで、学習意欲を向上させ、主体的な学びにつなげるために、今後も、体験的な学びを意図的に取り入れ、科学的な思考の定着を図っていく。</li> </ul>

## 宇都宮市立清原南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童が意欲的に取り組むための授業づくり	児童の興味・関心・意欲を高め、自ら問いをもち意欲的に取り組めるような学習活動を工夫している。また、主体的に粘り強く課題に取り組めるように学習形態など様々な環境を整える工夫をしている。	「勉強が好き」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、市の平均を下回っている学年が多かった。「自分から進んで勉強している」の質問に、肯定的回答をした児童の割合は、市の平均を低・中学年は下回ったが、高学年は上回った。また、「勉強しておもしろい、楽しいと思う」の質問の肯定的回答をした児童の割合は、市の平均を下回っている傾向が見られたが、すべての学年で80%を上回った。
互いの考えや思いを聞き合い、協働的に課題解決に向かうための工夫	相手意識をもち、自分の思いや考えを伝えたり、友達の考えを聞き合ったりする場などの学び合いの工夫をしている。	「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、市の平均を上回っている学年が多かった。「先生や友達の話、最後まできちんと聞いている」の質問では、肯定的回答をした児童の割合も、すべての学年で90%を上回っていて、「自分の考えを根拠をあげ話すことができる」の質問に、肯定的回答をした児童の割合は、市の平均を上回った学年が多かった。
児童が自分で成長を実感できる振り返りの工夫	授業の終末に、教師が児童一人一人の頑張りやよさなど見取ったことを価値づけて評価したり、児童が自分で成長を実感できるように振り返りを位置付けている。	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」の質問に、肯定的回答をした児童の割合は、全ての学年で市の平均を下回った。「勉強して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」の質問に肯定的回答をした児童の割合も、市の平均を下回っている傾向が見られた。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

<p>・「勉強が好き」や「勉強して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」の質問に、肯定的解答をした児童の割合は、市の平均を下回っている傾向が見られた。次年度は、学習意欲の向上や主体的な学びを実現するために、「宇都宮モデル」の指導の充実に努める。授業では、実生活に結び付けた課題を提示するなど工夫し、児童が課題解決の意欲と見通しをもち、試行錯誤しながら課題に取り組めるようにする。また、今日の学びをまとめ、振り返ることで、児童が自分の学びや成長を実感し、次時への学習課題をもったり、生活に生かす力につながったりできるように授業改善に努める。</p> <p>・国・県・市の調査結果から、「書くこと」の平均正答率は低い傾向が見られた。国語だけでなく各教科の特質に応じて、思考・表現活動を積極的に取り入れたり、振り返りを自分自身の言葉で論述させたりするなど、書く機会を意図的に設定し、言語活動の充実に努める。</p> <p>・一人一台端末などのICT機器等をツールとして効果的に活用し、各教科のねらいを踏まえた学習活動の充実にさらに進める。</p> <p>・家庭学習への取り組み方では、計画を立てて取り組むことに課題が見られた。学年の発達段階に応じて、授業の復習やテストの解き直しなどより確かな学力の定着に結び付く学習内容を提示したり、AIDリルを活用し個に応じた課題に取り組ませたりして、家庭と連携しながら、家庭学習の定着と充実に努める。</p> <p>・次年度も引き続き、友達との聞き合いや伝え合いなどの学び合いの場を意図的に設定し、様々な情報や知識を共有するとともに、教師のコーディネート力を高め、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるよう教師が促す「学習の個性化」を図る。</p>
--